

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
 大学院生研究
 2011年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学研究科	日本文学専攻
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科・日本文学専攻 博士課程前期課程2年	高橋 枝里子 印	
指導教員	所属・職名	氏名	
	文学部・教授	小峯 和明 印	
自然・人文・社会の別	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 共同 名
研究課題名	室町時代物語にみる中世日本の食意識—『酒飯論絵巻』を中心に—		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2011 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

「食」を題材とした室町時代物語に着目し、日本の中世古典文学作品の中でどのように「食」という題材が扱われてきたかを明らかにすることを目的とする。その方法として今回は『酒飯論絵巻』を主な研究対象作品として据えた。その著名度や重要性に対して『酒飯論絵巻』についての詳細な研究は少なく、基礎研究も充分には行われていなかった。しかし、近年フランスの研究會を中心に研究の機運が盛り上がり、その重要性が評価されようとしている。本研究では『酒飯論絵巻』の基礎研究を行い、諸本・詞書・絵画を読み解いていくことでこの絵巻の持つ多くの要素に多角的に光を当てると共に、どのように「食」という題材が扱われたかについて考察した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[室町時代物語] [酒飯論絵巻] [食文化]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

『酒飯論絵巻』とは、室町時代後期に成立した「食」を題材として取り扱った絵巻物である。当時の飲食風景や調理風景などの食風俗を描いた絵画部分と、優れた治世で世が平和であることを寿ぐ第一段、酒を好む上戸の主張の第二段、酒は飲めないが飯を好む下戸の主張の第三段、酒も飯も好む中戸がそれぞれ持論を展開する第四段の計四つの詞書部分からなっている。また、詞書には上戸は念仏宗、下戸は法華宗、中戸は天台宗の信徒としての詞がそれぞれの主張の終わりに短歌として表れており、異なった宗派の者同士がそれぞれの教義を展開して主張を認めさせようとする宗論としての性格も持っている。

今回の研究ではまず『酒飯論絵巻』の基礎調査を行った。『酒飯論絵巻』の伝本は多く、主に狩野元信筆と伝えられる狩野派系統の画風で描かれた狩野派系統の本と、土佐光元筆と伝えられる土佐派系統の画風で描かれた小絵のサイズの土佐派系統の本の、大きく2系統に分けることができる。伝本の系統分類と原本の特定については先行研究において並木誠士氏が狩野派の絵巻を中心に研究し、またパリのシンポジウムでも新たな伝本リストの報告がなされていたが、本研究においては、それらの伝本リストに載っていない新たな伝本を発見し紹介した。

また、実見と写真で見る事の出来る絵巻の絵画部分について詳細な比較調査を行うことで、今まで忠実な転写関係にあると評価されてきた『酒飯論絵巻』の諸写本の特徴を洗い出し、諸本同士の関係を明らかにして纏めると共に、各諸本は模写された時代の風俗を服飾や食器に反映しているという新たな点を指摘した。また、並木氏が原本と目した文化庁蔵本を詳細に実見することで、隅指示や写し落とし、描き間違いを新たに見つけ、原本ではなく模本の一つであるという結論に至った。

次に詞書部分の構造と要素を読み解くことによって、上戸下戸中戸の三論が宗論という枠組みの中で、それぞれ個性的な特徴を持ちながら酒・飯・中道の徳を述べ、自説を説いていることを明らかにした。

具体的には、故事を多く引いて酒の徳を示す上戸、様々な御料や菜や餅を物尽くしで語ってみせることによって徳を示す下戸、身近な喩えを挙げて中道の徳を説こうとする中戸と、それぞれの論の手法が異なっていることを指摘した。この手法の違いが直接的に浄土宗、法華宗、天台宗と繋がっていたわけではないが、詞書作者の意識としては、論法が三者三様に差異化されていた。

また、酒の徳や飯の徳が語られる一方で、それぞれの徳を語る「詞戦い」の一部として相手の身体性を槍玉にした悪態が挙げ連ねられており、そこで描写されるような酒飲みの失敗などは、笑いを伴って読み手に受け入れられていたことを明らかにした。詞書に書かれていない部分についても言及したが、結論として纏めきれなかった為、そこは課題である。

次に、先行研究の多い狩野派に対してあまり言及されることのない土佐派系統の絵巻に注目した。狩野派系統の絵巻と詳細に比較することで、土佐派系統の絵画が狩野派系統の絵画を参考にした再絵画化ではないかと指摘すると共に、再絵画化された理由は詞書も含めて『酒飯論絵巻』をより私的に、個人的に享受して手元に置いておきたいという要求の元に描かれたものではないかと考察した。

また、その際に土佐派系統の絵巻がどのように詞書の要素を受け、再絵画化したかに焦点を当て、詞書にない部分を多く描きこむ・空間と時間的に制約のある画風の狩野派系統の絵巻に対して、土佐派系統の小絵は狩野派絵画において描かれた人物モチーフや図様を参考にしながらも、構成や描写の強弱を考え直して描いていくという再構成を行っていたということを明らかにした。

また、『酒飯論絵巻』の絵画化はその詞書の要素のうち、絵画で再現可能であることを最大限に表した結果であると同時に、理想的な治世の寿ぎ、酒の徳、飯の徳、その両者をあわせた徳を全て食を通した富栄えた様子で描いていることから、詞書の持つ飲食の徳に注目して絵画化するという、詞書享受の面も表していることを考察した。

同時代の室町時代物語の中での『酒飯論絵巻』の位置づけや、詞書に書かれた食文化の内容の詳細な解説などへの触れ方が足りず『酒飯論絵巻』を全方位から眺め、評価するには至らなかったが、基礎研究においては詳細な諸本分類を行い、詞書、絵画の点で新たな研究の切り口を示した。

なお、今年度「『酒飯論絵巻の研究』」という題で以上の論点をまとめた修士論文を提出した。今年度中の発表とはならなかったが、2012年度中には土佐派の画風を持つ土佐派系統の絵巻の再絵画化について成果を公表することを目指す。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)